

Contents

- 郷土の木
専務理事 松井進一
- 第13期事業報告
- 第14期事業計画
- 助成先紹介
・末崎 朗
- 冬のプログラムのご案内

雲海に浮かぶ上越国境の山々 (新潟・群馬県境)

郷土の木

専務理事 松井進一

皆様には良き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

新潟県の県木は雪の中で粘り強く自生するユキツバキです。郷土にはゆかりの木があり、市町村の緑化や観光のシンボルとして制定されています。新潟市の木は柳都をイメージしたヤナギ、新発田市はサクラ、三条市は五葉松、長岡市はケヤキ、上越市は桜の名所でサクラです。

かつて十日町は女の子が生まれると庭に桐の苗木を植え、お嫁に行くときに成長した桐でタンスを作ったあげたという話を聞きました。十日町市の木は桐かと思いきやブナです。昭和四十年頃、松之山町よりスギ林への転換を勧められたところ地主はブナ林のまま維持しました。一方、

全国一の桐タンスの生産量を誇る加茂市の木は、桐と思いきやスギです。

柏崎市高柳町門出は手漉き和紙の産地です。高志の生紙工房は近くの山の地材をふんだんに使い木の風合いを生かした建屋です。木のぬくもりを感じる工房は、職人さんたちが集中して紙漉きができます。高柳町

の木は楮でなくケヤキ、柏崎市の木は松です。

佐渡市中興にある農家民宿には、百年以上経ったと思われる木肌の美しい立派な床柱があります。この床柱は佐渡市の木であるアテビ（ヒノキアスナロ）と分かりました。二十年前に結成されたアテビの会は、佐渡固有のアテビを守り育て、その美林をよみがえらせようと活動に取り組んでいます。

当財団のある越路地域の木はモミジです。越路もみじ園を核としたもみじの里づくりを進めています。越路もみじの会は、三十年に亘りモミジの実生苗を育て園隣の中学校新入生へお祝いとして苗木を贈っています。

このような郷土の木と関わる取り組みは、木に親しみがわき郷土愛につながっていくように思います。私たちの木は、私たちの住む里のシンボルになるよう目指していきたいものです。

本年も皆様からのご支援をよろしくお願い申し上げます。

(公財)こしじ水と緑の会
第13期事業報告

(2021年10月1日)
2022年9月30日

皆さまのご支援により、第13期は次の活動を行うことが出来ました。ありがとうございます。

1. 助成事業

「第21回こしじ水と緑の会・朝日酒造自然保護助成基金」を実施しました。公募を行い、選考委員会で決定された10件に対して、計2,930,000円の資金助成を行いました。第19回助成事業成果発表会は開催せず、成果発表集を発行しました。

2. モニタリングサイト

1000

本事業は、朝日城の森周辺の生き物調査を継続して行うものです。

① 鳥類調査

通常越冬期2日間、繁殖期2日間行うところですが、コロナウイルスの影響で、2022年5、6月に繁殖期の調査を行いました。

② 植物調査

2021年10、11月、2022年

6、7、9月に新潟県自然観察指導員の会の方々の協力を得て、植物の開花結実調査を実施しました。8月はコロナウイルス感染拡大第7波のため中止としました。

3. 河川環境の調査研究

2022年9月3日に、「こしじ水と緑の会研究報告第1号」～「里山の魚類相」をテキストに「里山・里川の動物相」の講座を計画しましたが、コロナウイルス感染拡大第7波のため中止としました。

4. 水と緑の自然学校

環境教育に関する事業として、毎年開催していますが、今期はコロナウイルス感染拡大の影響で、1回が中止となりました。

① 酒林づくり体験

(2021/10/23) 参加11名

② ツリークライミング体験

(2022/5/3) 参加31名

③ 草花遊び

(2022/6/26) 参加6名

④ 昆虫観察会

コロナウイルスの影響で中止

5. 情報発信・普及啓発

① 「こしじ水と緑の会情報誌」第64号～67号まで発行しました。
② ホームページにオンライン寄付ページへのリンクボタンを設置しました。

6. 里山の保全・活用

① 寄付取得した越路の森を会場に「春の里山に親しむ会」を開催しました。
(2022/4/29) 参加13名

講師 渡辺茂氏

② 里山自然教室

里山の自然を座学で学ぶ講座を2つ計画しましたが、コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。
・雪とのつきあい方
・秋の草花
③ 朝日城の森の草刈などの森林保全管理を事務局にて行いました。
④ 寄付取得した「越路の森」の植生調査などを行いました。



非日常が味わえるツリークライミング体験

第13期 決算

(2021年10月1日～2022年9月30日)

収入の部

(単位：円)

科 目	決算額
1 基本財産運用収入	1,764,232
2 会費収入	1,316,000
3 補助金等収入	3,765,484
4 雑収入	75,336
経常収益計	6,921,052

支出の部

(単位：円)

科 目	決算額
1 事業費支出	4,741,826
(公1)助成事業費支出	2,921,067
(公2)モニタリングサイト1000調査研究費支出	36,678
(公3)渋海川調査費支出	0
(公4)自然学校運営費支出	627,084
(公5)HP及びび情報誌等発信費支出	649,682
(公6)里山活用モデル事業費支出	507,315
2 管理費支出	6,278,337
経常費用計	11,020,163
当期経常増減額	△ 4,099,111

財 産 目 録

(2022年9月30日現在)

【資産の部】

(単位：円)

1 流動資産	
普通預金	7,227,345
前払費用	153,120
流動資産合計	7,380,465
2 固定資産	
(1)基本財産	
普通預金	8,883,528
定期預金	37,044,000
有価証券	83,150,000
土地	115,312,597
基本財産合計	244,390,125
(2)特定資産	
山林取得積立預金	15,174,001
特定資産合計	15,174,001
(3)その他固定資産	
その他固定資産合計	28,954,675
固定資産合計	288,518,801
資産合計	295,899,266

【負債の部】

(単位：円)

1 流動負債	
前受金	6,000
未払金	30,739
流動負債合計	36,739
負債合計	36,739
正味財産	295,862,527

(公財)こしじ水と緑の会
第14期事業計画

(2022年10月1日～
2023年9月30日)

第14期は、法人運営の持続可能性に配慮しながら、各公益事業の着実な実施に努めます。

1. 助成事業

「第22回こしじ水と緑の会・朝日酒造自然保護助成基金」を実施します。新潟県内での実践活動や調査研究活動を支援します

2. モニタリングサイト

1000

① 鳥類調査

越冬期および繁殖期の調査を実施します。

② 植物調査

積雪期を除き、基本的に毎月1回、植物の開花結実調査を実施します。

3. 河川環境の調査研究

「研究報告第1号」渋海川の魚類相」をテキストに、里山・里川の

生きものに関する講座を開催します。

4. 水と緑の自然学校

環境教育に関する事業として、4つの自然学校を開催します。

① 酒林づくり体験 (10月開催済)

② ツリークライミング体験 (5月)

③ 草花遊び (6月)

④ 昆虫観察会 (8月)

5. 情報発信・普及啓発

情報誌を年4回発行します。また、ホームページの情報更新に努めます。

6. 里山の保全・活用

① 里山の自然への理解を深める
「春の里山に親しむ会」(4月)を開催します。

② 朝日城の森の草刈作業などの定期管理を実施します。

③ 「越路の森」の植生調査を実施し、調査結果はHPなどで公開します。

④ 里山の自然に対する知識を深める講座「里山自然教室」を開催します。

今期も変わらぬご支援をよろしく
お願いいたします。

第14期 予算

(2022年10月1日～2023年9月30日)

収入の部

(単位：円)

科目	予算額
1 基本財産運用収入	1,695,000
2 会費収入	1,320,000
3 補助金等収入	6,500,000
4 雑収入	150,000
経常収益計	9,665,000

支出の部

(単位：円)

科目	予算額
1 事業費支出	7,470,000
(公1) 助成事業費支出	5,160,000
(公2) モニタリングサイト1000調査研究費支出	100,000
(公3) 渋海川調査費支出	60,000
(公4) 自然学校運営費支出	700,000
(公5) HP及び情報誌等発信費支出	690,000
(公6) 里山活用モデル事業費支出	760,000
2 管理費支出	6,450,821
経常費用計	13,920,821
当期経常増減額	△ 4,255,821

助成先紹介



さえざるノジコ雄



餌をくわえるつがい

身近で不思議なノジコ

末崎 朗

ノジコは、ホオジロ科のお腹の黄色い小鳥である。体長は14cmとスズメより少し小柄で張りのあるきれいな声でよくさえずる。新潟県では、

里山を中心に多数生息している。私は小学生の時鳥に興味を持ち、親に連れて行ってもらった柏崎市の探鳥会で初めてノジコを見た。当時よく見ていた鳥類図鑑は今とは違い全種が掲載されておらず、よく似た

鳥である「アオジ？」と先輩に尋ねて、「いやノジコだろ。」と答えられたことをよく覚えている。趣味として野鳥観察を続けているうちに小学生が普通に見られたその鳥は、世界的にも日本の一部でしか繁殖していないこと、その理由ははっきりわかっていないことなどを知った。現在ノジコは絶滅の恐れがある種類として、環境省では準絶滅危惧種にランク付けされている。日本では夏鳥で、冬季は中国南部やフィリピンに渡るとされているが、他のホオジロ科の

鳥と比較して繁殖地の分布域が極端に狭く、ほぼ東日本の一部に限られている。「この新潟県の里山の何がそんなにお気に入りか渡ってくるのか？」調べてみたいと思ったのが私の調査を始めたきっかけである。初めはノジコを調べるといっても、何をどうすればいいか見当もつかなかった。思いついたのはノジコがいる所に足を運び、その場所を携帯GPSで記録することであった。ノジコを求めて新潟県内の主に上中越地方を巡り、確認できた場所を記録していった。数を重ねるにつれ何となくノジコの好む環境が見えてきた。新潟県の上中越地方に多い地すべり地にある沢沿いの斜面下部にノジコは圧倒的に多かった。しかし、

ノジコはさえざりを聞かなくても姿を見ることも多くはなかった。たま

に木の梢や電線上でさえざる姿を見ることができても、ほとんどはどこで鳴いているのかさえわからず、さえざる時以外の行動はなかなかわからなかった。「もつとノジコを観察しやすい場所を探すしかない。」そんな思いから各地を巡り、ようやく見つけたのが現在観察を続けている十日町市の場所である。ここは、地すべり地の下を流れる川の上流部に集落があるため道路沿いに電線が続いており、多くのノジコが電線上でさえざっていた。電線から飛び立つノジコを追うことで様々な行動を観察することができた。観察を続けて3シーズン目の今年、ようやく繁殖の確認と雛に与える餌をくわえる親鳥の写真を撮影できた。今私は雛に与える餌がノジコの局地的な分布の謎の鍵を握っているのではないかと考えている。こしじ水と緑の会の助成金によりデータを得ることもできたので今後も調査を継続していきたいと思う。ちなみに私が小学生の時に最初にノジコを見た場所では、もうその姿を見ることはできない。人間の環境変化の影響が大きいと思われる。準絶滅危惧種の謎を明らかにするのに、もうあまり時間は残されていないのかもしれない。

冬のプログラムのご案内

里山自然教室「雪とのつきあい方」

幹線道路の大渋滞を引き起こし、除雪や雪下ろしに時間と体力を使い、通勤通学に危険が迫る雪氷災害。雪について学び、雪害研究や雪に関する情報発信の現状を学ぶことで、雪氷災害から身を守るヒントをみつけようという講座です。雪氷防災研究センター主幹研究員の伊藤陽一先生を講師にお迎えし、雪の実態やメカニズムの研究状況、刻々と変化する気象状況の情報解析状況や発信状況などを解説していただきます。

日時 2月4日（土）9：30～11：00／集合：緑の家

■講師 伊藤陽一氏（雪氷防災研究センター主幹研究員）

■対象・募集

里山の自然に興味のある方（中学生以上） 20名（先着順）

■参加費 ￥300（保険料など）／こしじ水と緑の会会員は￥200

■お申込

事務局まで参加される方のお名前、連絡先の住所、電話番号をお知らせ下さい。後日、詳しいご案内をお送りいたします。

■申込〆切 2月1日（水）

■お願い

- ・参加にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策のため手指の消毒、マスクの着用にご協力ください。
- ・当日37.5℃以上の発熱や体調不良がある場合、感染者との濃厚接触の可能性がある場合、またご家族の中にこれらにあてはまる方がいらっしゃる場合は参加をご遠慮ください。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況などにより、中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。



当プログラムは、SDGsの目標達成に向けた取組です



画/松井了

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
昨年末、大雪で車の立往生が各所で発生し日常生活に多大な影響を受けました。自然の力は侮れません。2023年は穏やかな年になりますように。（拓）

会員動向（2022年11月30日現在）

会員449（個人388、法人61）

引き続き、ご支援のほど宜しくお願い致します。

ご寄附ありがとうございました

（2022年10月1日～11月30日、敬称略・順不同）

山際岩雄、中西克人、根本タマエ、中静透、吉原印刷（株）、野地英子、平澤清子、齊藤允昭、金内正子、粕谷与止男、松井進一、林文、（株）グロー、坂田俊行、小林純子、山崎文雄、（株）陸送北越、遠藤泰弘、細田眞司、浅井秀雄、市井昌子、山崎知則、平澤修、荻原彩子、金安健一、安達政晴、市川泰三

公益財団法人

こしじ水と緑の会



本誌は再生紙を使用しています
植物油インキを使用しています

〒949-5412 新潟県長岡市朝日595番地5 電話・FAX 0258-92-5238
HP <https://www.koshiji-nf.org> E-mail info@koshiji-nf.org